

国際化への セカンドステージ

文部科学省初等中等教育局
国際教育課在外教育施設指導係長

山本 則夫 氏



教育随想



月報 岡崎の教育

平成25年6月1日

6月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
文部科学省初等中等教育局 国際教育課在外教育施設指導係長 山本 則夫氏	
この人に聞く	2
全日本吹奏楽連盟常任理事 渡辺 尚也氏	
羅針盤	2
岩津中学校 校長 稲吉 治	
ふれあい	3
矢作北中 神谷 直希	
特集	4
塩の道 ～命の道をつなぐ岡崎～	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
悠紀斎田お田植え踊り(昭和8年)	
この本を	8

「わたしは、アメリカから帰国して間もない子供の作文の一節である。私は、担任の先生の丁寧な「てにをは」の指導と、あえてカタカナ表記には触れなかった彼女の国際感覚に感激した。

親の海外勤務に帯同して海外で暮らす子女数は、現在、約六万七千人であり、この三十年間で二倍になった。また、海外から日本へ移住する外国人数も、この三十年間で三倍近くに伸びた。学校においても、今やクラスに外国籍の子供が複数いることは珍しくない。国際化の波は、確実に教育現場にも押し寄せてきている。

岡崎の教育に目を転じてみると、全国に先駆けて行ってきた小学校の

英語教育、岡崎の心の醸成、環境教育は、今、実を結ぼうとしている。

郷土を愛し自国の文化に誇りをもった岡崎の子供たちが世界に羽ばたく日は遠くない。そして、その先には、海外で活躍する彼らの子供が岡崎に帰ってきたときの姿が見えてくる。

今、私は、海外の保護者から多くの相談を受けている。その一つに帰国生の受け入れ問題がある。帰国生は、学習だけでなく、言葉や文化の違いによる戸惑い、友人関係の心配など、様々なハードルを越えていかなくてはならない。彼らは滞在先と帰国後の二重のカルチャーショックを経験し、その上、語学や学習の苦労を強いられている。

帰国生は、「自己主張が強い」、「集団行動が苦手」と、しばしば敬

「わたしは、アメリカから帰国して間もない子供の作文の一節である。私は、担任の先生の丁寧な「てにをは」の指導と、あえてカタカナ表記には触れなかった彼女の国際感覚に感激した。

親の海外勤務に帯同して海外で暮らす子女数は、現在、約六万七千人であり、この三十年間で二倍になった。また、海外から日本へ移住する外国人数も、この三十年間で三倍近くに伸びた。学校においても、今やクラスに外国籍の子供が複数いることは珍しくない。国際化の波は、確実に教育現場にも押し寄せてきている。

岡崎の教育に目を転じてみると、全国に先駆けて行ってきた小学校の



遠される。これを短所としてではなく個性として受け止めることはできないだろうか。彼らが海外で培った新しい価値観や感性を生かした教育の展開が、国際化へのセカンドステージではないだろうか。

(やまもと のりお)



音楽の持つ力

全日本吹奏楽連盟常任理事

渡辺 尚也 氏

「昭和四十四年、光ヶ丘女子高等学校に理科の教師として勤め始め、その後、吹奏楽部を立ち上げました。」
渡辺さんは初代顧問として吹奏楽部を全国大会に出場するまでに育てあげた。さらに、今では毎年の恒例行事である「クリスマスページェント」を企画し、盛大に演出する原動力となった。

その後、平成十九年に全日本吹奏楽連盟理事に就任し、活動の範囲が県外にも広がった。

東日本大震災が起きた平成二十三年の十月、東京普門館で行われた全国吹奏楽コンクールで、福島県代表の磐城高等学校の演奏に出遭った。

「教師と生徒が共に作り上げたパッパ作『トッカータとフーガニ短調』の演奏は、ドラが鳴り響き、怒りを



表現した音が洪水のように進行していききました。演奏後は、割れんばかりの拍手と歓声が起きました。五千人を越す観客がスタンディングオベーションをして感動の涙を流しました。その気迫あふれる演奏は、まさに魂の演奏でした。」

魂の演奏に至った経緯を、渡辺さんは教えてくださった。

「震災後、学校が避難所になり部活動どころではなくなってしまうので、生徒たちが全国大会への夢を諦めかけた頃、たまたま避難所の体育館で部員が演奏をしているのを見て、避難していた方々が涙を流して喜んでくれました。その時、『この人たちに生きる元氣と希望を与えるために私たちは演奏しよう』と、部員の気持ちが一つになり、魂の演奏が生まれたそうです。練習したくても楽器もなければ会場もない。そんな状況での演奏でした。『誰かのために頑張れる人は強い』と言われますがまさにその通りですね。どうしてもあの魂の演奏を愛知県の皆さんに聴いてほしい、そして、福島の人たちの苦しみを少しでも和らげるために支援したいと強く思いました。」

平成二十四年九月一日、磐城高等学校の吹奏楽部の生徒を岡崎市に招聘して、光ヶ丘女子高等学校の生徒を中心とした合同バンドとの演奏が実現した。

「音楽は凄い力を持っています。優れた音楽には、うまさ、美しさを超えた凄さがあります。磐城高等学校は音楽の持つ力で『怒り』や『祈り』を伝えようと思いました。岡崎の生徒たちにもその思いが伝わり、演奏後の交流会では、互いの音楽を通して、生徒たちの心に響き合うものが生まれました。」

と、音楽の持つ力の素晴らしさを渡辺さんは強く語った。

さらに、音楽の魅力を多くの人に伝える取組みとして、入場料五百円のワンコインコンサートを立ち上げた。「オーケストラ団員など活躍の場のある音楽家も若いフリーの音楽家も、願いは同じです。一人でも多くの人に自分の音楽を届け、音楽の素晴らしさを知ってもらいたいということ。私たちは、こうした音楽家の願いと、名曲を生演奏で聴きたい子供たちの願いをつなげました。本物を肌で感じることで音楽の喜びを知り、心が豊かになります。」
心を育て、人と人との絆を作り出すことも音楽の持つ力の一つである。音楽の力を活かした活動はこれからも発展していくことだろう。

氏 名 わたなべ なおや
住 所 岡崎市上里



右足ですか、左足ですか

岩津中学校 校長 稲吉 治

「先生、相変わらず元氣だね。」

と、コンビニで血色のいい青年に声を掛けられた。すぐには分からなかったが、瞳の奥の輝きから名前が浮かんできた。建築関係で仕事をやってきたような記憶があったが、今は、食品関係と自動車関係の自営を始めたという。しばらく世間話をした後、「俺の子供には、やんちゃをさせないからね」と、肉厚のたくましい掌で私の手を握ってくれた。

中学時代の彼への対応は、苦しいものが多々あった。「親には言うな」という彼の申し出を無視し、勝手に「愛の定期便」と称して、毎週金曜日の夕方の家庭訪問を開始した。彼と両親への注文と同時に、いい話題を必ずお土産にしていた。訪問の回数が増えるにつれ、険しい顔が少なくなり、寿司やうどんを準備していただいたこともあった。彼の進路



本気になれ、本気は楽しい

矢作北中 神谷 直希

「何か足りないな。生徒会活動に全校生徒が参加していかないわけじゃないけれど、活気が足りない。活動がマンネリ化してきている気がする。」

後期の生徒会長を務めることになったA男は、生徒会活動に悩みを抱いていた。発想が豊かでユーモアに満ちたA男。人一倍の行動力を持ち合わせているがために抱える悩みであった。

生徒会顧問の私は、
「よし、A男たちの代で一から作り上げる活動を始めるか。」

とA男に言葉を投げかけた。待っていましたとばかりに、A男はやる気に満ちた表情を見せた。

「ただし、何か新しいことを始めるときは中途半端では駄目だ。どんなことがあっても最後まで本気でやり切ることが大事だ。本気になれ、本気は楽しい。」

とアドバイスも加えた。

「わかりました。やり遂げます。」

A男は私に強く誓った。

彼は言葉遊びを取り入れた俳句や川柳をやりたいと考え、「矢北行事川柳」を生徒会行事として提案した。

全校生徒に球技大会を題材に川柳を作ってもらい、その中から代表作品を発表しようという企画だ。しかし、これまで川柳を考えたことも作ったこともない生徒に、A男の思いは伝わらなかった。

その結果、いい加減なふざけた川柳があったり、全員の川柳が回収できないクラスもあったりした。悩んで落ち込んでいたA男に声をかけた。「初めから完璧に事が進むことはない。A男がいいと思うことを全部やってみなさい。」

次の行事である文化祭で、A男は深夜までかかって川柳のチラシを作ってきた。それを全学級に掲示し、さらに全校生徒分を印刷して配付した。

昼の放送でも彼が時間をかけて考えたいくつもの川柳を発表した。彼は「今できること」に必死に取り組んでいた。A男の表情が本気になってきた。その真剣さが全校生徒に広がり、思いの込もった川柳が集まった。

A男は、全校生徒の温かい気持ちを感じ、「学級の代表川柳を体育館に張り出そう」と呼びかけ、生徒会役員を総動員して大きな紙に川柳を書いた。

文化祭当日、緊張感を含んだ声で、「合唱魂 声がとどろき 紅葉揺れ」と、代表作品を読み上げるA男の姿



があった。その声に反応して大歓声があつた。その声に反応して大歓声があつた。その声に反応して大歓声があつた。その声に反応して大歓声があつた。

A男の活躍に感化された他の生徒会役員も、何かを作りたいという意欲を見せた。その後、「縦割りレク大会」や「ふれあい昼放課」など、様々な提案が出され、生徒議会を経て、新しい企画が次々と実現していった。

多くの企画を始めたことにより、全校生徒の生徒会活動への参加度も高まった。希望者を募った矢作川の清掃活動「学区美化活動」も四百名以上の生徒が集まり、過去最高の参加人数であった。

一人の本気が学級、学年、全校へと広がり、多くの生徒の気持ちを動かした。

決定は、私を悩ませたが、最後は、父親にお骨折りをいただいた。

現状を改善しようと、教師だけが躍起になって動く生徒指導だけでは、子供を幸せにすることはできない。よくしたいという意志を保護者と共有しながら子供を前に進めたい。また、「俺も中学生の時にやんちゃだったからな」と、変に子供をかばう大人にしたいくないという、将来への願いも対話の中に強く込めていきたい。

「子供を真ん中にして、子供の両手を家庭と学校がしっかりと握ります。子供の前や後ろや頭の上で、両者が目対話をしながら、幸せになるには左右どちらの足から出すのかを決めます。どっちにしますか。右ですね。では、行きますよ。さん、はい。こんなイメージで子供を前に出していきたいですね。」

これは、PTA総会と入学説明会での寸劇の台詞である。子供役と保護者役を二人の若い先生が演じた。「どちらかの手がねじれても、どちらかが目を塞いでいても、子供は上手に前に進めない。よろしくお願ひしますね」と、締めくくる。

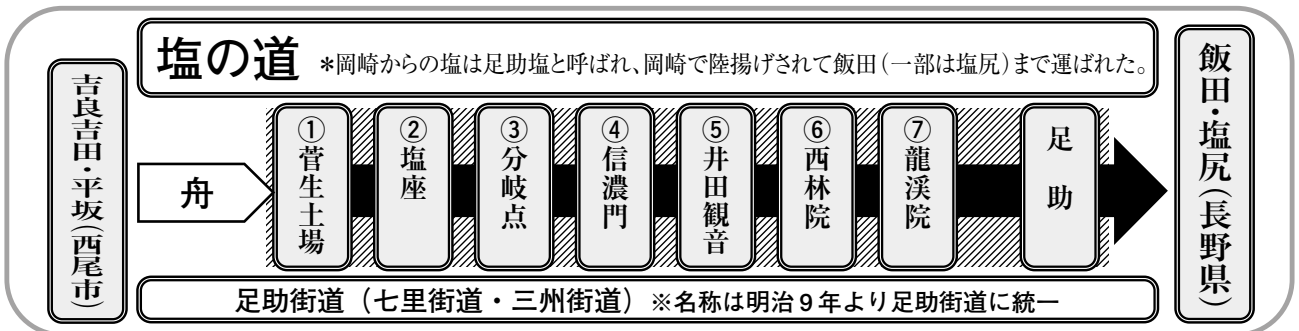
子供を取り巻くすべての大人が対話を重ねることで、子供を幸せにする具体的な糸口が見えてくる。



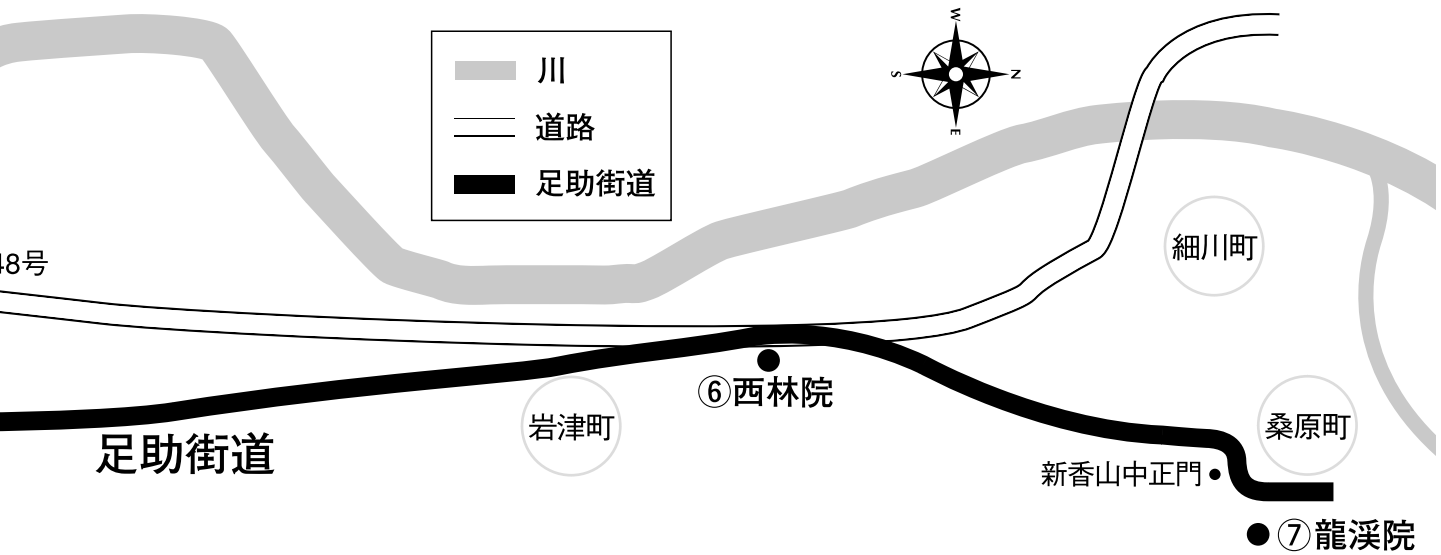
▲ 矢作川左岸の八丁土場 (首都大学東京図書情報センター所蔵)

江戸時代の岡崎の道(街道)と言えは、東海道や二十七曲りなどが知られている。しかし、岡崎が「塩の道」の出発地として重要な拠点であったことを知っている人は少ない。

当時、塩は、味噌・醤油・保存食などを造る際にも使われ、生活必需品であるため、藩で管理されていた。「諸色相場付」によると、一八三八(天保九年)年の価格は一升約二十五文(一キロ約五百円前後)であり、内陸に入るほど、一倍・三倍と値を上げていった。



▲ 塩の運ばれた主要経路



⑥ 西林院常夜灯 (岩津町)



岩津天神への入り口を過ぎ、国道248号に出たところに西林院というお寺があり、境内に常夜灯がある。そこに道標として「右あすけ・左ころも道」と書かれている。

⑦ 龍溪院金光明塔 (桑原町)



新香山中正門前(大沢)を北に向かい新道を右折すると龍溪院がある。その入り口に金光明塔がある。この付近に番所(関所)があった。幕府の役人がいて下りの荷物に対してのみ、税金を取った。



▲ 郷土史研究家 加藤栄一氏

東西の交流を広げる東海道と、南北の交流を広げる塩の道が交差する岡崎は、江戸時代には東海地区を代表する商業都市であったことが分かります。(加藤氏 談)

塩は海水から作られるので、海岸地域から内陸への交易のための道ができ、次第に「塩の道＝命の道」として整備されていった。詳細な資料は少ないが、岡崎市在住の郷土史研究家加藤栄一氏、中根洋治氏等が、現存する道標・馬頭観音・常夜灯等をたどりながら調査・研究している。中でも、足助街道は、三州街道あるいは七里街道とも呼ばれ、三河湾と信州を結ぶ街道で、全国的にも塩の道として知られていた。江戸時代、岡崎城外堀に設けられた三つの門の一つに、「信濃門」があった。この門は北方面の重要な出入り口であり、足助まで七里程あったと言われている。岡崎は、東西に伸びる東海道と、南北に伸びる塩の道である足助街道とが交差していた。そして、人と物資が行き来する一大拠点として江戸時代に繁栄していたことが理解できる。

① 菅生土場（菅生町）



岡崎には土場といって荷物を揚げたり下ろしたりする港の役目をする場所があった。菅生土場・八丁土場など複数あった。塩だけは直接上流へ運べず、岡崎城の下で陸揚げされた。

④ 信濃門道標（能見町）

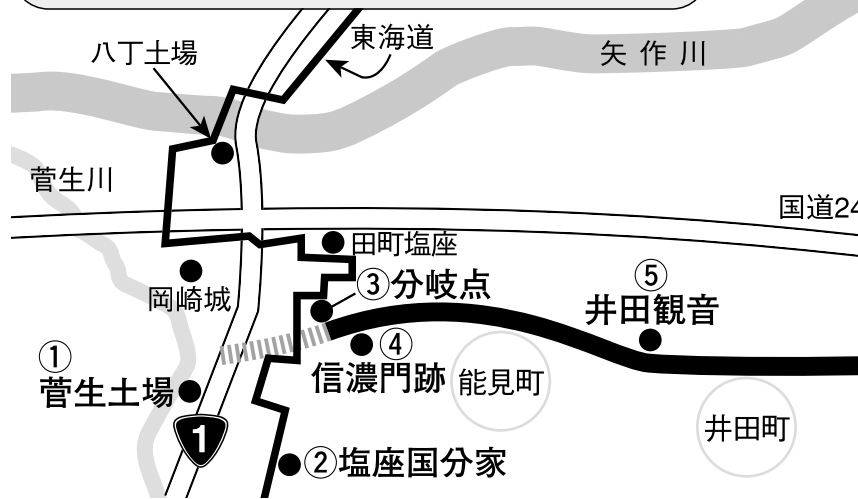


信濃門の道標は本町と能見町の間で、道が曲がっているところにある。ここにはかつて岡崎城のお堀と堀があって、信州信濃へ通じる信濃門という門があった。この門は、足助街道の始まりで、この門を通らないと岡崎に入ることができなかった。

② 塩座の札（伝馬町）



岡崎城下の田町と伝馬には塩座といわれる塩問屋があり、江戸時代の塩はこの塩座を通さないと足助や他のところに運べなかった。永禄年間(1558～1570)に武田信玄の軍勢が足助を通して西三河へ侵入するという情報が伝わると、塩商人は家康から物見を命ぜられ、その時の功績によって塩座の特権が与えられたと言われている。



③ 東海道との分岐点（本町通三丁目）



ここは東海道との分かれ道である。右へ行けば京都、左へ行けば江戸である。菅生土場・八丁土場から来た荷駄はここから信濃門へと向かった。

⑤ 井田観音道標（井田町）



井田坂の途中、井田観音の所に「左大樹寺・中信州善光寺・右滝山寺」という道標があった。現在、道標が井田交差点のスーパーマーケット裏にある。



● 芸術鑑賞会

今年度も芸術鑑賞会を行う。芸術・文化活動の優れた作品等の鑑賞や体験活動を通して、子供たちの感性を育み、未来を担う子供たちの健やかな成長を図る。

参加対象は、小学校六年生全員と教員で、劇団「四季」の「このころの劇場」として、岡崎市で招待公演される。作品は、『桃次郎の大冒険』を予定している。
この機会が、子供たちに大きな感動を与えてくれることを期待している。

- 日時
八月六日（火）
・午前部 十時三十分～
・午後部 十四時～
八月七日（水）
・午後部 十四時～

● 表彰

◆第11回ジュニア打楽器アンサンブルコンクール全国大会
優秀賞 矢作北中学校

●平成25年度スーパーサイエンススクール推進事業
推進校
小学校 男川小学校
愛宕小学校
六ツ美中部小学校
中学校 葵中学校
福岡中学校
岩津中学校

●小中学校のようす

平成二十五年岡崎市立の小中学校の概要がまとまった。五月一日現在の学校や学級数、

●学校・学級の規模（市内平均）

	小学校	中学校
1校当たり児童・生徒数	465人	560人
1校当たり学級数	17学級	18学級
1学級当たり児童・生徒数	30人	34人

児童生徒と教職員の数を表に示した。

一校当たりの児童・生徒数は、小学校は三名減で、中学校は翔南中学校の開校もあり二十三名減となった。一校当たりの学級数は小・中ともに変わらない。一学級当たりの児童生徒数は、小学校は変わらず、中学校は一名減となった。

岡崎市内の児童生徒数の合計は、昨年よりも七十四名減少した。教職員数は五名増となった。
教員補助者は一八〇名で、うち二十八名は図書館支援員。図書館支援員は三名減で、教員補助者全体は四名増。英語

支援員は十八名で変わらず、ALTは二十名で、一名増となった。

●学年別児童・生徒数（人）（平成25年5月1日現在）

学年	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
男	1,891	1,795	1,844	1,816	1,959	1,900	1,907	1,921	1,957
女	1,791	1,728	1,771	1,709	1,784	1,843	1,838	1,760	1,816
計	3,682	3,523	3,615	3,525	3,743	3,743	3,745	3,681	3,773

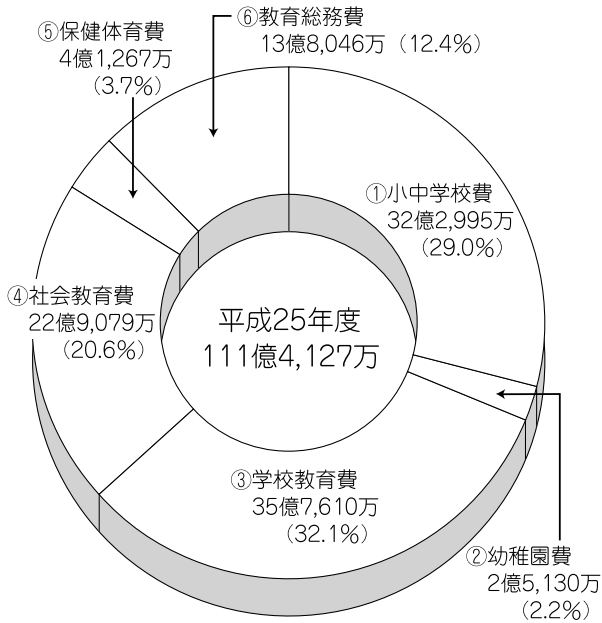
●児童・生徒・教職員数（人）（平成25年5月1日現在）

区分	学校数	学級 〈特別支援〉 (学級)	児童・生徒 (人)			校長・教頭・教諭 (人) * 養護教諭・期限付講師を含む			栄養教諭・職員 (人) 常勤	事務職員 (人) 常勤	養護教諭 (人) 常勤
			男	女	計	男	女	計			
小学校	47	799 < 85 >	11,205	10,626	21,831	451	632	1,083	10	51	50
中学校	20	362 < 42 >	5,785	5,414	11,199	393	270	663	4	27	24
合計	67	1,161 < 127 >	16,990	16,040	33,030	844	902	1,746	14	78	74

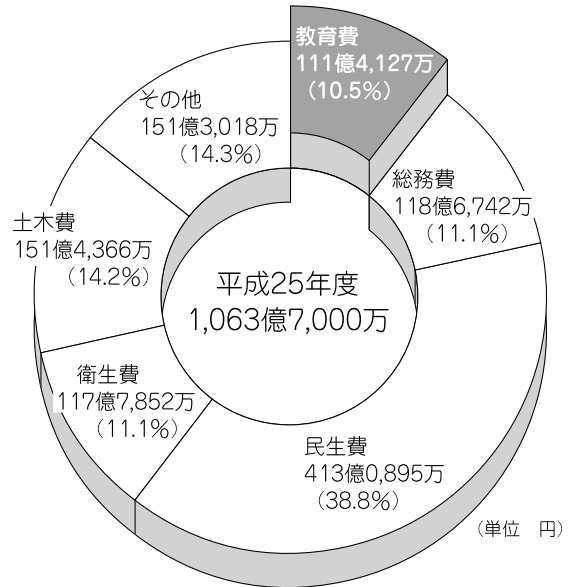
平成25年度 岡崎市の教育予算

誇りと安心をもてる すみよさを 次の10年につないでいく予算

〈教育費の内訳〉



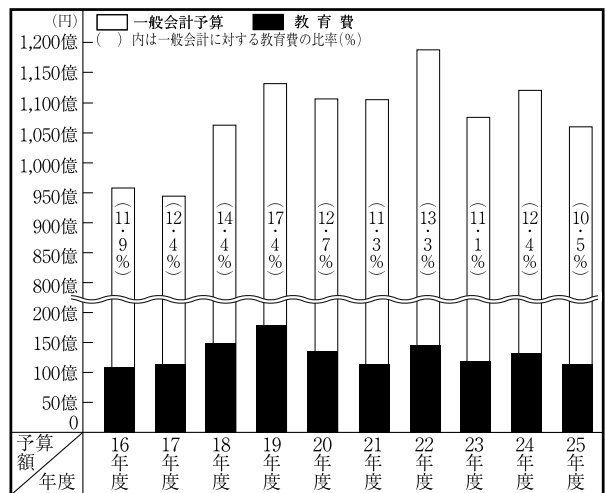
〈一般会計予算〉



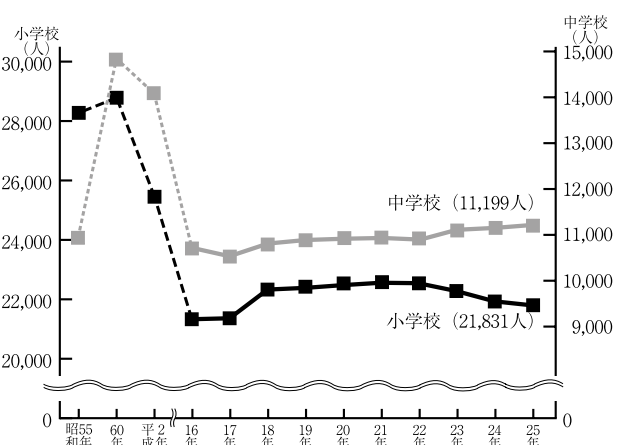
◆平成25年度のあらまし◆

小中学校費	太陽光発電設備設置 (梅園小・常磐中) 便所簡易改修 (根石小・男川小・緑丘小・羽根小・六名小・竜美丘小・広幡小・井田小・福岡小・細川小・大樹寺小・大門小・矢作東小・矢作北小・矢作南小・六ツ美南部小・上地小) プール施設改築 (矢作西小) : 繰越 屋体・校舎外壁等改修 (六名小・三島小・愛宕小・竜谷小・秦梨小・大門小・矢作東小・矢作北小・城南小・河合中・額田中) : 繰越 便所全面改修 (藤川小・生平小・東海中・額田中) : 繰越 屋体非構造部材耐震化 (奥殿小・六ツ美西部小・宮崎小・新香山中・竜南中) 高圧受電設備改修 (美川中) 職員室空調設備改修 (美川中・東海中・河合中) 図書室空調設備設置 (美合小・三島小・愛宕小・竜谷小・藤川小・山中小・本宿小・秦梨小・奥殿小・矢作西小・六ツ美中部小・形埜小) 資料館解体 (形埜小) ※小中学校名は予定
学校教育費	就学援助事業 (要・準要保護児童生徒、特別支援教育就学奨励) 行事開催事業委託及び指導研修 教育の振興、研究助成 児童・生徒の健康診断・健康維持 小中学校各種スポーツ大会開催 児童・生徒の健全育成、生き方教育の推進 ESD (持続可能な開発のための教育) の推進 スーパーサイエンススクールの推進 英語指導用タブレット型端末の導入・活用 総合学習センター・教育相談センター管理運営 学校給食事業
社会教育費	生涯学習推進事業 家庭教育推進事業 青少年センター・太陽の城解体事業 青少年健全育成推進事業 文化財保存管理事業 文化財整備活用事業 視聴覚事業 少年自然の家管理運営及び施設整備事業
教育総務費	奨学金関連業務 私立高校等授業料補助業務

◆一般会計予算と教育費の推移



◆児童・生徒数の推移 (数字は毎年5月1日現在)



・カ
ツ
ト
前福岡中
尾崎勇司

悠紀斎田お田植え踊り (昭和8年)

写真提供：六ツ美南部小学校

悠紀斎田お田植え踊りとは、大正天皇が即位され、宮中に献納する米を作るための水田（斎田）として六ツ美村が選ばれたことを記念してできた田植え踊りである。

この伝統的な踊りや唄は八十年余りに渡って行われており、岡崎市の無形民族文化財にも指定されている。

教育基本法や学校教育法が改正され、郷土の伝統や文化が見直されるようになってきた。斎田百周年を見通し、六ツ美南部小学校では保存会の方々の協力を得て、昨年度から運動会でお田植え踊りが再び披露されるようになった。



音が重なり、オーケストラになる。一つの音楽を創りあげること不思議な連帯感が生じ、コミュニケーション能力が伸びる。「石橋をたたくより、まづ飛んでしまえ」と、よいと思ったことは、即実行に移してきた渡辺氏。「誰でもモーツァルトになれる。それは指導次第だ」。子供たちが持つ力を引き出すとする思いは深い。

塩は人が生きていくために必要なもの。昔から塩は、海水をもとに作っていた。海に接していない信州などの山国にとって、海へつながる「塩の道」は命の道とも言える。そんな塩の道「足助街道」を、道標・常夜灯・馬頭観音等をたどって実際に歩いてみよう。今も昔も、人とのつながりの大切さを肌で感じるのだらう。

シ オ ス ア

すうつと浅緑に浮かび上がる光の筋。ホタルの瞬きが楽しめる季節がやってきた。六月上旬の蒸し暑い夜が、絶好のホタル狩り日和である。虫除けスプレーや蚊取り線香は使えないから、うちわを持って虫や暑気を扇ぎ払うのがよい。今年はいつ頃が見頃だろうか。岡崎ホタル学校で教えていただく。



青梅を漬ける祖母の手元を孫が真剣に見ている。三世代にわたって受け継がれる味がある。さて、今年の出来はどうか。



*いじめない、いじめられない育て方 山崎 房一
PHP文庫 ¥550

この一文
「甘えさせ」の反対が「甘やかし」だということに気づかず、つまりこの両者をごちゃ混ぜにしているところに、家庭教育の混乱の火種があるとわたしはにらんでいます。この両者の区別が判然としないため、上手に甘えさせることができず、結果として子どもを孤立させてしまうのです。

子供の孤立は、いじめが根源とある。日々、子供たちと接する中、親として、教師として、大人の都合で甘やかし、子供たちに偽りの愛を押しつけていたのではないか。子育ての大事なポイントに気付かせてくれる本である。

- *選ぶ力 五木 寛之 ¥840
- *「維新」する覚悟 堺屋 太一 ¥840
- *辻井伸行 奇跡の音色 神原 一光 ¥610
- 豊富小 入山 定之